

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0793240011		
法人名	社会福祉法人おおくま福寿会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	双葉郡大熊町大字夫沢字南台152番の2 (電話) 0240-32-3822		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮 1 1 1		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月28日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 18年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	平屋	建ての 1 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,650 円	その他の経費(月額)	12,200 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 玉井医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東は太平洋、西は阿武隈山系の山並みが見渡せる景色の良い立地条件の場所に、法人が運営する特別養護老人ホームと隣接し設置されている。事業所の利用者は比較的身体能力の高い方が多く、畑仕事や毎日の食事材料の買い物、洗濯や調理等日常生活上の役割りを持っている方が多く、張り合いのある生活を送られているように感じられた。自由な雰囲気のもとで、毎朝職員と近くの公園に散歩に行ったり、事業所から外出することも日常的に行われている。利用者に対する職員の担当制(主担当、副担当)を取っており、本人の希望や思いを汲み上げる工夫がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議の開催回数は改善されていない。現状に即した介護計画の見直しをする際には、介護計画作成時の会議で協議し見直すよう改善されている。食事を楽しむことの支援については、利用者が役割りをもつように改善されている。災害対策については、事業所独自の避難訓練も行われているが、事業所の災害対策マニュアルが作成されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で取り組み、それぞれが評価用紙に記入した内容を発表し、管理者と介護リーダーがまとめた。また、昨年の外部評価結果についてもミーティングで話し合いながら改善に取組んできた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 会議のメンバーは、利用者家族代表、民生委員、町婦人会会長、町母子寡婦福祉会会長、行政福祉担当者であり、事業所の事業報告、利用者の状況報告などを行っている。年2回の開催にとどまっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族来所時に把握した内容は、介護記録や管理者用の記録簿に記入し、職員間で家族の意見を共有したうえで事業所の運営に生かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事へ積極的に参加するほか、毎日買物のために外出し、地域の方々と交流している。また、様々なボランティアを受け入れ、利用者や地域の方々が交流する機会が多くなるようにしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理事会での協議を経て、『職員が代理家族となり、家庭的な雰囲気の中、入居者に安心と潤いのある協同生活を提供する』という事業所独自の理念を作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、名札の裏側に理念を記した物を入れている他、日々のミーティングにて職員間で理念の実践について意見を出し合いながら常に理念を意識した介護サービスの提供に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事へ積極的に参加するほか、毎日買い物のために外出し、地域の方々と交流している。また、様々なボランティアを受け入れ、利用者と地域の方々が交流する機会が多くなるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、それぞれが評価用紙に記入した内容を発表し、管理者と介護リーダーがまとめた。また、昨年の外部評価結果についてもミーティングで話し合いながら改善に取り組んできた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議のメンバーは、利用者家族代表、民生委員、町婦人会会長、町母子寡婦福祉会会長、行政福祉担当者であり、事業所の事業報告、利用者の状況報告などを行っている。年2回の開催にとどまっている。</p>	○	<p>日常的に事業所と関わりのある地域の方をメンバーとし、利用者サービス向上のための実質的な話し合いを行ってほしい。さらに、話し合いのテーマをあらかじめ設定し、年6回開催するようにしてほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に対し担当職員が利用者の近況報告を2ヶ月に1回送付するとともに、事業所の瓦版『やすらぎの里物語』を家族へ2ヶ月に1回送付している。また、家族が来所した時には管理者及び担当者からより細やかな報告を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来所時に管理者や担当職員が家族の意見を把握し、職員は介護記録へ記入し、管理者は『管理者から』という連絡書へ記入し、職員間で家族の意見を共有したうえで事業所の運営に生かしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の事業所間で人事異動はあるが、利用者への影響を十分考慮した対応をしている。また、利用者の担当制を主担当と副担当とし、主担当が異動しても副担当がいるように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員の研修計画を立て、職員の経験や段階に添った研修が受けられる様になっている。また、法人内でテーマを決めた内部研修や外部研修参加者の報告も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会（浜北地区会議）による情報交換会や勉強会に管理者および職員が参加しており、その機会を通じて他事業所職員との交流を行い、サービスの質の向上に役立っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）	/	/	/
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の個性が出せるよう、園芸（やすらぎの里農園）やホーム内の装飾、簡単な日常の役割等、利用者が出来る事を行って頂いている。また、利用者職員が役割を分担し、協同作業も行うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の担当制（主担当、副担当）を活かし、利用者一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、生活の質の向上に役立っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員が参加する定例内部会議において介護計画の検討を行い、職員全体で方向性を確認したものを利用者や家族に提示し、同意を得るようにしている。しかし、介護計画に基づく介護内容の評価と介護計画作成のための会議の記録が整備されていない。	○	介護計画の作成経過を分かるようにするため、介護計画に基づく介護内容の評価と介護計画作成のための会議の記録を整備してほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じ、主に3ヶ月ごとに見直しを行っている。さらに、心身状況の著しい変化があった場合には、速やかに家族へ変化の様子を報告すると共に、家族の要望等を聞きながら現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院の定期受診及び突発的な受診等は家族対応にて行って頂いている。また、看護職員を配置したことにより、必要に応じ利用者受診時に看護職員が同行し、医療機関との連携を密にしており、利用者が適切な医療を受けられる様支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に利用者の重度化等に関する事業所としての方針を説明し同意を得ている。さらに、利用者の重度化や終末期の対応に関しては、早めに家族や主治医と相談しながら、職員を含め全員で方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>守秘義務については、職員採用時に研修を実施すると共に、守秘義務の誓約書を取っている。法人全体でも継続的に研修を実施している。さらに、広報誌への利用者の写真の掲載については家族へ了解を得るとともに、個人情報鍵のかかる書庫に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、その場の状況に応じて柔軟に対応している。男性利用者は主に午後からは屋外の作業を行う等、それぞれの日々の過ごし方があり、希望に添って支援するようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材の買出しは、利用者と職員と一緒にスーパーへ出かけに行っている。調理の下ごしらえや配膳も利用者と職員が共に行っている。利用者の誕生日には、その方の好きな献立にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴としているが、希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。また、利用者の好みや身体状況に応じて、入浴の順番や湯の温度、入浴剤の使用、露天風呂風の工夫を行い、出来るだけ入浴が楽しみとなる様支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	畑仕事を行う役割や消防団での経験を生かした避難訓練時のリーダー、洗濯物をたたむ役割のほか様々な生活上の役割を持って頂き、日々の生活に張り合いを持って頂く様に支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩や畑仕事、園芸などの屋外での活動が日常的に定着している。また、外出の機会を多くするため、毎日のように食事材料の買出しや買い物職員と利用者が行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ、ホームの屋外に通じるドアには鍵をかけずセンサーを設置している。防犯目的以外の施錠は行っていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での避難訓練を年2回実施している他、事業所単独でも年3回避難訓練を実施している。事業所の非常ベルは、法人が運営している隣接の特別養護老人ホームに通じており、非常時には応援が得られる様になっている。非常食や水も準備している。	○	避難訓練の実施記録を作成し、次回の訓練に活用するようにしてほしい。また、利用者の特性を考慮し、事業所独自の災害対策マニュアルを作成してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は法人の管理栄養士に確認していただいております。栄養的に偏りが無いよう努めている。又、利用者ごとの水分及び食事摂取量を記録している。利用者個々の希望や身体状況に応じて水分確保ができるよう、水やお茶を準備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広いスペースが確保されており、清潔で落ち着けるような小物が所々に配置されている。季節感が感じられるよう、季節の花々やタペストリーが飾られている等、利用者が居心地良く過ごせる様な工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはホームで用意したベッドと机・整理箆笥が置かれているが、その配置は自由となっている。また、利用者の私物である使い慣れた小物などが置かれており、居心地良く過ごせる様な工夫がされている。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームやすらぎの里

記入担当者名 藤原 輝美

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。